

職能科通信 22号

2014年1月発行

職能科通信

検索

〒243-0121
神奈川県厚木市七沢 516
神奈川リハビリテーション病院
職能科
TEL&FAX 046-249-2575

高次脳機能障害セミナー —就労支援編—

平成25年10月12日(土)、国際医療福祉大学小田原校にて「高次脳機能障害セミナー 就労支援編」が開催されました。今年度は、当セミナー初の県西地区での開催となり、地域の支援者の方を含め55名のご参加をいただきました。「高次脳機能障害の理解」、また職能科の支援の紹介を含めた「高次脳機能障害の就労支援」の講義から始まり、その後事例検討・グループワークを実施しました(写真1)。事例検討では多職種の様々な視点から多くの意見が出され、それぞれの新たな発見やネットワーク構築につながった様子でした。グループワーク後は協力機関の方より県内各就労支援機関等のご紹介をいただきました。

今回の協力機関と講師は次の方々でした。

神奈川県障害者就労相談センター 中村一男氏
神奈川県障害者職業センター 山崎さやか氏
障害者支援センターぼけっと 渡辺直人氏
NPO 法人脳外傷友の会ナナ 浜崎正廣氏

神奈川県総合リハセンターの講師は、
リハビリテーション科医師 青木重陽
高次脳機能障害支援室 瀧澤学、中澤若菜
職能科 泉忠彦、植西佑香里でした。

(植西 佑香里)



写真1 グループワーク

高次脳機能障害セミナー —実務編—

平成25年12月7日(土)、厚木ヤングコミュニティーセンターにて、「高次脳機能障害セミナー実務編」が開催されました。定員50名のところ80名を超える方に参加いただきました。医療職の方々の他、地域の支援機関の方々にも多数参加していただき、支援の輪の広がりを実感することができました(写真2)。

今回は、「人とのつながりから見る高次脳機能障害者支援」というサブタイトルに沿って、当院リハビリテーション各科の担当者が講演を行いました。職能科からは、職業における人とのつながりという視点から、職能科の取組みについて科長の泉が講演を行いました。参加者の方々からは、職能科での取組みを具体的に知ることができて良かったとの声を複数頂きました。引き続き皆様のお役に立つ情報を発信していけるよう努力していきたいと思っております。(小林 國明)



写真2 実務編質疑応答

ビジネスマナーが大切なんです (七沢学園就労移行支援事業)

— 職業準備学習、ビジネスマナー —

「皆様、こんにちは。」…さて、この時！

- ① 頭を下げる角度は何度？
- ② 視線の送り方はどのようにして、何メートル先を見る？
- ③ 姿勢、手の位置はどのようにする？

など、何割の方が明解に説明する事ができるでしょうか？ 恥ずかしながら筆者の私もビジネスマナーの学習を担当しなければ分からないままだったかもしれません。

就労移行支援利用者も同様の事が多く、よくできている部分もありますが、通常の挨拶とは逆な言い方になっていたり、礼を欠く挨拶になってしまっている事がよくあります。こうしたビジネスマナーに関わる所を確認・修正、学習していく機会として、「ビジネスマナーを身につける」プログラムを一年目の方に週一回座学・実践の学習を行っています。

実習先の事業所からの指摘は、作業面の出来・不出来より立ち居振る舞いや「ほうれんそう」(報告・連絡・相談)、服装などビジネスマナーに関する事が多く、実際の就職活動の中での決め手もビジネスマナーが習得できているか否かで決まる場合もあります。

この学習を通して基本的なビジネスマナーを知識として覚え、実習等の実際の体験を通して、身につける取り掛かりになればよいと思っています。(山本 和夫)

平成 25 年度就労支援の実績

| 職場内リハビリテーション実施人数 | |
|------------------|-----|
| 2013年10月~12月の人数 | 6名 |
| 2013年4月からの累計 | 13名 |

| 就職・復職者の人数 | | |
|-------------------------|------|-----|
| 2013年10月~12月の 就職・復職者 | 新規就労 | 5名 |
| | 復職 | 8名 |
| 2013年4月からの累計 | 新規就労 | 11名 |
| | 復職 | 21名 |

模擬職場

職能科には、グループ訓練として「模擬職場」を設定しており、多くの高次脳機能障がいの方が、職場復帰や新規就労を目指して利用されています。模擬職場では、作業を行う前に、毎回全体ミーティングを行っています。その中で行っているウォーミングアップ、「昨日今日、気になったニュースの話題発表」についてご紹介します(写真3)。

これは、新聞・テレビニュースなどの記事を見て、気になったニュースを人前で発表するものです。色々なニュースから発表する題材を選ぶ、覚えることが苦手な方はメモを取りまとめるなどによって収束的思考力や代償手段を使うことで高次脳機能障がいへの理解を促がすことが第一の目的です。勿論、人前で発言することになれることも大切な目的の1つです。最近、利用者の方々は、発表に備えて積極的にメモを取る・新聞記事の切り抜きを持参する・インターネット記事を印刷する・内容を覚えてくるなど工夫して発表しています。(増尾 奈緒子)



写真3 ウォーミングアップ